

環境科学アドバイザー養成講座資料

第九教科資料

【健康を害する生活環境と要因】

- シックハウス環境…P2
- 電磁波環境…P9
- 環境汚染…P14
- ウイルスや病原菌他…P20
- 精神的要因…P25

付随資料

- ◆自然環境及び生活環境における環境エネルギー値
- ◆生体活性化住宅
- ◆生体活性化システム
- ◆人間の本质と肉体と心のしくみ

■シックハウス環境

生命力を奪う化学製品の新材やコンクリート

◆塩化ビニールクロス

◆合板フローリング材

◆アクリル・ジュータンや CF シート

◆コンクリート

◆床下の湿気と防腐剤と白蟻駆除剤

◆床下の防湿コンクリート

◆塩化ビニールクロス

【環境数値】

- ★免疫=7(14～)
- ★生命エネルギー値=6(11～)
- ★環境ストレス=7(8～)
- ★癌共鳴度=6(8～)※()内は人体最低必要値

【特徴】

- ★防火上では難燃材であるが燃えると有毒ガスを出す為、一酸化炭素以上に有害！
- ★呼吸しないので糊が乾かない為、有害な防腐剤入りの糊が使われる
- ★塩化ビニールそのものが有害なエネルギーを放射し、室内のマイナスイオンや自然生命エネルギーを消滅させる為、人間の健康度を示す免疫は非常に低い
- ★通気性がなく、室内の有害なエネルギーによって、家族そろってビニール袋を被ってシンナー遊びしているような状態です
- ★静電気が起きやすく、ホコリや汚れを吸い付け易い
- ★カビが発生しやすい
- ★発癌性があり、こうした中で生活することで発ガン率も高くなる

【コメント】

防火対策として難燃材の塩化ビニールクロスが壁や天井に使用されるが、塩化ビニール自体が人体に有害で、さらに接着ノリの防腐剤が人体に悪く、燃えると非常に危険な有毒ガスを出します。

静電気によって室内をプラスイオン化し、カビ易く、発ガン性もあり、大変有害な新建材の代表です。

※かつては遠赤外線エネルギーの自然の素材である土壁が使われていて、呼吸もし人体に良い効果がありました。

【対策】

出来るだけ有害な建材をエコ建材に変えるだけでも、最低限の環境改善に繋がります。さらに積極的な活性化対策が地球的環境汚染や電磁波問題から身体守り、健康な肉体づくりと豊かな心と精神を作り出します。

◆合板フローリング材

【環境値】

★免疫=7(14～)

★生命エネルギー値=6(11～)

★環境ストレス=6(8～)

★癌共鳴度=6(8～)※()内は人体に最低必要値

【特徴】

- ★薄い板材を何層にも有害な接着剤で張り合わせた新建材
- ★仕上げも化学塗料で汚れやカビ等が付きやすい
- ★70℃の温水やヒーターで床暖すると、室内が高化学スモッグ状態になります
- ★火事の場合やはり有毒ガスを出します
- ★室内環境の免疫値を下げ自然生体エネルギーを消滅させる

【コメント】

最近殆どこの化学製品の合板フローリングが床材として使われますが、床暖など施工した場合室内を高化学スモッグ状態にし、特に火災等の際には有毒ガスを発生させ大変危険です

塩化ビニールや合板フローリング張りの室内は夏の熱中症対象にもなり、疲れやストレスの原因にもなります※かつては天然素材の板張りや本畳が使われ、素足でも歩けました

【対策】

既存の上にエコ資材を敷き詰めて天然素材のフローリングやウールジュータンの敷設で身体にさわる部分の改善強化が出来ます。

◆アクリル・ジュータンや CF シート

【環境数値】

- ★免疫=8(14～)
 - ★生命エネルギー値=8(11～)
 - ★環境ストレス=5～7(8～)
 - ★癌共鳴度=6(8～)
- ※()内は人体最低必要値

【特徴】

- ★化学製品の新建材
- ★汚れ易くカビ等が付きやすい
- ★70℃の温水やヒーターで床暖すると、室内が高化学スモッグ状態になります
- ★火事の場合やはり有毒ガスを出します
- ★室内環境の免疫値を下げ自然生体エネルギーを消滅させる

【コメント】

化学製品の合板フローリング等と同じ有害な材質で床暖など施工した場合、同様に室内を高化学スモッグ状態にし、特に火災等の際には有毒ガスを発生させ大変危険です。

夏の熱中症対象にもなり、疲れやストレスの原因にもなります。

※通気性のある天然素材のコルクタイルやウールジュータン、板張り等が適切です。コルクタイル等は水回りに使用しても、水を弾き、呼吸する素足に優しい自然の素材です。

【対策】

自然素材のウールジュータンや無垢板フローリングや天然コルクタイル等のエコ建材に取り替えることで、環境改善が出来、ダコの発生や熱中症防止にもなります。

◆コンクリート

【環境数値】

★免疫=7(14～)

★生命エネルギー値=8(11～)

★環境ストレス=4(8～)

★癌共鳴度=3(8～)

※()内は人体最低必要値

【特徴】

- ★煙草や、福島第1原発隣接の汚染農地416マイクロシールドと同じ免疫7、癌共鳴度3
- ★強アルカリ性で木材をボロボロにする為、コンクリートの基礎に替わってから土台や柱が腐るようになり、防腐剤や白蟻駆除剤が使われるようになった。
- ★天然の礎石に土台や柱を乗せた時代は石の磁気エネルギーで土台や柱が活性化して何百年と耐久性がありました。

※人体の血液も弱アルカリ性であるため、人体に有害です。

◆コンクリートは人体に必要な生体磁気エネルギーを遮断する為、土間コンクリートにすると地面の磁気エネルギーを遮断し、大気中の生体電気エネルギーも遮断して、生命力や体温を低下させる

◆室内環境をプラスイオン化する。

◆冷えやすく、体温や生命エネルギーを奪う。

【コメント】

建材の中ではコンクリートは強度はあるが、強アルカリ性で人体に有害であり、土間コンクリートを使うことで地面の湿気を押さえても、人体に必要な生体磁気エネルギーを遮断します。

【対策】

強アルカリ性で木材や健康に悪いコンクリートが、炭素やセラミック炭素の配合によって弱アルカリ性で防水性や強度の高い健康建材に変わります。

◆床下の湿気と防腐剤と白蟻駆除剤

【環境数値】

★免疫=7(14～)

★生命エネルギー値=6(11～)

★環境ストレス=7(8～)

★癌共鳴度=6(8～)

※()内は人体最低必要値

【特徴】

★基礎コンクリートで密閉された床下は過剰な湿気が充満し、床下や土台の腐りは元より、壁や天井裏や室内全体にまで影響します。

★床下の地面からの湿気は、床下や室内全体のカビやダニや雑菌の繁殖原因になります。

★特に防腐剤と白蟻駆除剤は長年にわたり、住まい全体にジワジワと発ガン性のある化学物質を放出し続けています。

床下を解体すると一気に室内に充満します。

【コメント】

非常に危険な化学物質と湿気が充満し住まいの中で最も不衛生で、建物と生活と健康に悪影響を与えているのが床下です。

まさに、室内の化学製品の新建材や、電磁波と共に人体の生命力を奪い、疲労させ、癌や病の引き金になっています。

【対策】

セラミック炭素等の遠赤外線活性化資材の敷設や活性化コンクリートの敷設、また遠赤外線蓄熱式温水床暖房などによる完全な健康、耐震、耐久施工等の対策があります。

◆床下の湿気対策と防湿コンクリート

【環境数値】

★免疫=7(14～)

★生命エネルギー値=6(11～)

★環境ストレス=7(8～)

★癌共鳴度=6(8～)

※()内は人体最低必要値

【特徴】

★地面からの湿気は押さえるもののコンクリートその物が有害な放射性物質です。

★人体の生命を維持している大地から放射されている生体磁気エネルギーを封鎖してしまうため、観葉植物や人体の生命力を低下させます

【コメント】

かつて、日本建築は天然石の上に土台や柱を据え、不健康なコンクリートや防腐剤や白蟻駆除剤などは使われず、湿気やカビ、腐りなどなく、大地からは健全な生体磁気エネルギーが上がり、建材も全て健康に良いものばかりで、家も人間も健康でした。

現在の床下はコンクリート布基礎で塞ぐ為に、強アルカリ性のコンクリートで土台や柱は腐り、地面からは建物中に湿気が上がります。

その為、最近では防湿のためにコンクリートで地面を塞いでしまいますが同時に生体エネルギーもカットしてしまいます。

またコンクリート自体も有害です。

【対策】

本来、施工時に炭素やセラミック炭素を混入してコンクリートを打てば、大地も床下も良い環境になりますが、コンクリートは生体エネルギーをカットしてしまいます。

新たにセラミック炭素入りコンクリートをうち足すか、セラミック炭素等を敷設するなどしてコンクリートの害を防ぎ、遠赤外線の活性化環境にすることが大切です。

■電磁波環境

電磁波は放射能以上に身体に障害を与える

- ◆パソコン・テレビ・携帯電話
- ◆電子レンジ・IH クッキングレンジ
- ◆自動車・電車・飛行機
- ◆高圧線やトランス

◆パソコン・テレビ・携帯電話

パソコンの【環境数値】

★免疫=2(14～)

★生命エネルギー値=4(11～)

★環境ストレス=1(8～)

★癌共鳴度=1(8～)

※()内は人体最低必要値

※影響は大きさや距離によっても異なります

【特徴】

- ◆電磁波はストレス度や発ガン性は化学物質以上に細胞内原子に影響し、室内環境の空気もプラスイオン化します。
- ◆テレビはかつてのブラウン管の免疫が 4 に対して、液晶テレビは免疫 2 で、さらに強い電磁波を持ちます。
- ◆長時間、手元で使用するパソコンは最も影響が高く生体を破壊します。
- ◆耳元で使う携帯電話も、利用頻度が高く大きな影響があります。

【コメント】

電磁波の影響は化学物質以上に高い。

福島第 1 原発の放射能の影響も、隣接地の免疫は 7/発ガン性は 3 ですが建屋の隣の高圧線からの電磁波は免疫は 2/発ガン性は-1 となっています。

従って、放射能漏れしてない原子力発電所でも高圧線の電磁波による発がん率が高いはずです。

まして、身近な所で長時間使用する電子機器は電磁波対策が必要です。

【対策】

電磁波をカットするだけでなく、高い健康エネルギーに転換させ、パソコンなどを多用されている事務所などでは自身の防御対策も必要です

◆電子レンジ・IH クッキングレンジ

電子レンジの【環境数値】

★免疫=4(14～)

★生命エネルギー値=4(11～)

★ストレス=-2(8～)

★癌共鳴度=2(8～)

※()内は人体最低必要値

※IH の電磁波はより強い

【特徴】

★電子レンジの電磁波も大変高いが、直接に人体や室内への影響だけでなく、食品その物のストレス度を高め、発ガン性を高めます。

★特に一般食品の癌共鳴度は 7 から、末期に近い 4 までたかまります。

★高い電力を消費する IH は特に強い電磁波を出します。

電子レンジと同様に、室内や人体ばかりでなく料理にも悪影響があります。

【コメント】

食べ物に使用する電子レンジや IH は特に強い電磁波を出し室内環境や人体に影響しますが、食品や料理のストレス度や発ガン性を高めてしまいます。

こうした食べ物を取ることで、内部被曝状態を作ります。

※生体活性化システムでは電磁波を健康に良い遠赤外線に転換させ、むしろ健康な環境と健康な食べ物に変えます。

【対策】

利用価値の高い電子レンジ等は使わないことより、電磁波を健康に良い遠赤外線に転換させて、良い食べ物になるような積極的な対策が必要です。

◆自動車・電車・飛行機

自動車の【環境数値】

★免疫=3(14～)

★マイナスイオン-3(8～)特に低い

★生命エネルギー値=3(11～)

★ストレス=1(8～)

★癌共鳴度=1(8～)

※()内は人体最低必要値

【特徴】

★自動車内のエンジン始動時の電磁波やストレスは電子レンジ以上

*免疫:3/4

*生体エネルギー:3/4

*ストレス:1/-2

*癌共鳴度:1/2

★電車も免疫 7、癌共鳴度 4 で福島第 1 原発隣接地並みのエネルギー値です。

★飛行機は免疫 7、癌共鳴度 5 で高圧線の側のマンションや住宅並みの癌共鳴度があります。

★特に長時間利用し、電子レンジ以上の電磁波を持つ自動車が健康障害も高く、事故の原因にもなります。

車に乗ってイライラ現象が起きるのもこうした関係が考えられます。

【コメント】

自動車の電磁波や環境エネルギー値は想像以上です。

特に長距離トラック運転手や毎日乗車するタクシー運転手は、毎日電磁波の影響を受けているため、疲労や健康傷害を起こし易く、多くの事故の原因にもなっています。

【対策】

生体活性化システムの【自動車電磁波対策セット】は電磁波を健康エネルギーに転換させて、車内を快適な空間に変え、安全と燃費削減を果たします、

◆高圧線やトランス

高圧線の近くの建物の【環境数値】

★免疫=11(14～)

★生命エネルギー値=4(11～)

★環境ストレス=6(8～)

★癌共鳴度=5(8～)

※()内は人体最低必要値

【特徴】

- ★高圧線から放射される電磁波は大変強力で、周辺の住宅やマンションの室内環境での癌共鳴度は5で、中期癌レベルの電磁波を24時間発生し続けています。
- ★超高速で回転する細胞内原子に干渉するため、肉体や脳細胞にも影響します。
- ★特に高圧線近くに住む人の癌発生率は他の所より多い。
- ★福島第1原発での測定では、建屋からの環境被害度より二本の高圧線からの電磁波の健康被害度の方がはるかに高い数値が測定されます。
- ★トランスの電磁波は高圧線より弱くても、建物の近くに設置されるため影響が高い。

【コメント】

高圧線から45度の角度で地上に放射されます。
アメリカでは高圧線と癌の因果関係は、発電と経済上の都合から認めていませんが、40m以内の建築は禁止されているようです。
日本では高圧線の真下でも野放し状態で建物が建てられており、癌の発生率も多くみられます。
街角のトランスも建物に接近しているため同様に、室内空間に影響します。

【対策】

公益上高圧線の排除は出来ませんが、生活空間での電磁波対策が必要です。
かつて、高圧線の側に建築された、大黒柱電磁気融合エネルギーシステムのある【生体活性化住宅】と土地の活性化システムのコラボでは、電磁波を吸収し健康に良いエネルギー空間に転換させることができました。

■環境汚染

肉体は環境に共鳴し支配される

- ◆中国からの大気汚染の影響
- ◆農地や土地の汚染と影響
- ◆地球温暖化
- ◆市街地の大気汚染の影響
- ◆高層マンションと磁場エネルギー低下

◆中国からの大気汚染

【コメント】

平成 20 年の北京オリンピックでの中国の経済開発を境に、日本の環境汚染が一気に変化しました。

人間の生命活動は環境内における生命エネルギーの量によってコントロールされています。生活環境における、この自然生命エネルギーの量が、開発以前は 10～11 ありましたが、開発を境に 9 まで下がりました。

生活環境と人体は同じ数値になります。

すなわち、生活環境内におけるエネルギー以上には、人間は生命機能が発揮できないのです。

当時、自然生命エネルギー量 9 の人は末期癌患者か重病人の数値でした。

開発以降に 9 になってから癌患者の増加や、自殺や精神障害、引きこもり等が一気に増加しはじめました。

かつての、日本の戦後復興時の約 4 倍といわれる中国の大気汚染が、偏西風や黄砂によって日本列島に飛来しはじめたのです。

日本の住環境の新建材の自然生命エネルギー量は元々 6 しかありませんが、それまでは屋外が 13 程のあったため、室内全体は換気によって 10～11 ありました。

しかし、大気汚染によって、一気に室内が 9 まで低下しました。

つまり、環境悪化と免疫力、生命力の低下が一気におきるため、身体機能の低下と精神障害も一気に低下することになります。

こうしたシックハウス環境と大気汚染、電磁波等の諸条件が重なり、社会全体が健康や精神面での低下が進行状態にあります。

【対策】

こうした環境悪化に対処するのが、シックハウス対策と環境エネルギーを高める生体活性化システムの諸々の事業なのです。

◆農地や土地の汚染

【環境数値】

- ★免疫=11(14～)
 - ★生命エネルギー値=9(11～)
 - ★環境ストレス=7(8～)
 - ★癌共鳴度=6～7(8～)
- ※()内は人体最低必要値

【特徴】

- ★これは殆ど全国の畑や水田のエネルギー値です。住宅やマンションも同一です。
- ★15 マイクロシーベルトの飯舘村長泥地区の活性化事業前の畑と同じ数値です。
- ★つまり、長年使用された農薬や化学肥料が堆積して、口に入れる農作物そのものがシックハウス状況になっています。
- ★セシウムよりも寧ろ、他の農薬や化学肥料の健康障害度の方が高くなっています。
- ★こうした化学物質が農作物に吸収されることでダブル障害となります。

【コメント】

真夏日における熱中症でも畑やビニールハウスで死亡事故が相継ぐのは、こうした化学物質汚染の畑が高温で熱しられることで猛毒状態になります。大気汚染の高化学スモッグ状態が重なるためです。

かつての熱中症とは明らかに異なります。

住宅内でもエアコンを使わないお年寄りが、室内で高化学スモッグ状態に陥ります。

高温で日照りの夏場には毎日 1,000 人近い人達が救急車ではこぼれます。

【対策】

生体活性化システムの農地活性化事業では、こうした農地や敷地を活性化させ、農薬の除染や、土地の生体磁気エネルギーの強化を行い、土地や作物のエネルギーアップを行っています。

【参考】

飯舘村活性化農地の【エネルギー数値】

- ★免疫=11(14～)⇒20
- ★生命エネルギー値=9(11～)⇒18
- ★環境ストレス=7(8～)⇒18
- ★癌共鳴度=6(8～)⇒19

※()内は人体最低必要値

伊勢神宮をはるかにしのぐ数値となっています。

郡山市の活性化水田のお米はセシウム 0、免疫 18 の最高のお米が収穫されています。

◆地球温暖化

【コメント】

大気汚染と地球温暖化は同一事項です。

二酸化炭素の増加は、実際に二酸化炭素が増加するわけではない。

本来大気層を覆っている水素から酸素までの元素があり、水素を中心として酸素と炭素が陰陽の働きで動植物の生命活動を支えています。

動物は水分と食料を取り、酸素を吸って生命活動を行って酸化した二酸化炭素を吐き出し、樹木は水分とその二酸化炭素を吸収し光合成を行い、炭素を体内に残して、酸素を放出します。

つまり、動物と植物は、まさに相互補助関係にあります。

人間が自然の生活をしている間は、この関係はバランス良く発展繁栄します。

しかし、人間が産業を手にいれ化石燃料を大量に使うようになると、二酸化炭素の排出量が急速に高まり、大気汚染と温暖化現象が急速に高まります。

特に中国からの大気汚染を受ける日本は、今危険な状態にあります。

そして、自然の生命バランスが失われ動植物の生命が失われて行きます。

これまでは、3ヶ月半で成長する竹はそれほど繁殖しませんでした。急速な二酸化炭素の増加によって竹の繁殖が勢いづき、全国の生態系が替わりつつあります。

■全国の森の間伐と同時に、竹を伐採して竹炭にし、福島農地の活性化にして行くことで、二酸化炭素問題を有効利用することも出来ます。

何れにしても地球的温暖化は個人単位でも、急速な解決も出来ませんが、個人レベルでの環境対策が急務です。

◆市街地の環境汚染

【コメント】

森の中の自然生命エネルギー量は必要量の11を超える13から15ほどありますが、市街地の大気は9～10ほどしかなく、生命の限界を超えた極めて厳しい状況にあります。従って、換気を行っても改善されなくなり、新建材の生命エネルギー量6に迫っています。

■こうした状況から健康を維持する為には、シックハウス対策のみならず生命エネルギーの強化対策が必要になります。

◆高層マンションと磁場エネルギー低下

【コメント】

人体も動植物も、宇宙大気空間の生体電気エネルギーと大地の生体磁気エネルギーの両方からのエネルギーを受信して、生命機能が行われています。

従って、大地に足をつけている時が最も健康的です

大地には 2 酸化ケイ素という酸素の塊のような土や岩盤があり、常に生命エネルギーである磁気エネルギーを発信しています。

従って、大地をコンクリートで封鎖したり、大地から遠ざかることは、生命エネルギーが希薄になって行くことになります。

かつて、某大学の研究で5階以下に住む人達と、6階以上に住む人達の健康調査を行ったところ、5階以下に住む人達の方が健康面でも、出産率でも高いことが分かりました。

しかし、現在では交通量も増えたことで、都市の低層階は排気ガスの問題もあります。

また、地上の生体を持った宇宙飛行士が地上を離れて宇宙空間で長期間滞在してくると、骨や筋肉や身体機能に障害が出ます。

これは単に筋肉を使わなかっただけではありません。

こうして、高層マンションでの生活も健康に関係があることが分かります。

【対策】

高層マンション対策としては、高層階に人口地盤の磁場空間をつくることで、寧ろ低層階の排気ガス問題を同時にクリアすることも出来ます。

環境汚染と共に増加するウイルスや病原菌

■ウイルスや病原菌・その他

◆カビやダニ

◆O-157 や大腸菌

◆狂牛病や鳥インフルエンザ問題

◆新型インフルエンザ

◆風邪やインフルエンザ

◆カビやダニ

【コメント】

自然素材と玉石の上に柱や土台の乗っていた昔の日本家屋には100年経っても、カビやダニは発生しません。

自然素材と遠赤外線の生体活性化住宅にもカビやダニ、ホルマリンやホルムアルデヒド等の化学反応ありません。

コンクリート布基礎で床下をふさぎ、新建材で建てられた現在の住宅の室内は、湿気と化学反応が高く、空気は酸化しているため、カビやダニ、雑菌が繁殖しやすい。

こうした環境もアレルギーや喘息の要因になります。

出来るだけ自然素材にしたり、湿気対策、活性化対策を施す必要があります。

◆O-157 や大腸菌

【コメント】

O-157 や大腸菌等の食中毒感染も環境が大きな原因です。

環境の清潔も大切ですが、空気の酸化や湿気等を防ぎ、O-157 や大腸菌の生存しにくい活性化環境づくりや、超活性水等を使って料理することで、未然に菌の活動を抑えたり、発生を防いだりすることが出来ます。

◆狂牛病や鳥インフルエンザ問題

【コメント】

狂牛病や鳥インフルエンザは直接人間が感染するウイルスではありませんが、口にすることで間接的には影響します。

問題はこうしたウイルスや病原菌の発生は地球的環境汚染や生活環境の汚染の増加によって、全く異質な微細な細菌類の発生を引き起こすことです。

汚染が強くなればなるほど細菌類も病原菌も強くなっていきます。

狂牛病や口蹄疫や鳥インフルエンザは牛や鳥が感染するウイルスですが、対抗手段としては厩舎の環境保全や活性化対策を行って予防する方が、安全で膨大な損失を防ぎ、寧ろ健全で質の高い食材の提供が可能となります。こうした対策は放射能対策にも応用出来ます。

【追加コメント】

狂牛病や口蹄疫や鳥インフルエンザ等はまさに人間が環境を破壊し汚染したことから発生したものです。

本来その被害は人間が受けてしかるべきものです。

起きている現象の真実を自覚することが大切です。

いつこれらのウイルスが人間を対象としたものにかわるかも知れないのです。

◆ 新型インフルエンザ

【コメント】

動植物や微生物等、生命体はその場所や環境に適したものが発生し生存します。従って、環境が変われば生態系もかわり、時には絶滅して行きます。

そうした地球的環境汚染の中からつき次と新手の病原菌やウイルスが発生し、時には猛威を振ります。

そんな一つが新型インフルエンザです。

汚染度が強くなればなるほどウイルスは強くなり、動物や人間の免疫力は低下するため、急速な感染や死亡率が高くなります。

何れの場合でも免疫力や生命力の低いほど犠牲になりやすいのです。

そして、予防対策も大変です。

感染しない力をつけるためにも、消毒等の予防の面からも、最大の予防は生活環境の活性化対策です。

免疫力や生命力アップと病原菌やウイルスの威力を低下させるダブル効果があります。

◆ 風邪やインフルエンザ

【コメント】

体力が下がると風邪やインフルエンザにも懸かりやすくなり、治りにくくなります。

活性化された健康な環境では風邪やインフルエンザも活動出来ず、体も暖まっているため感染や発病しにくくなります。

たとえ懸かっても程度が軽く治りも早くなります。

常に環境対策が基本になります。

■ 精神的要因

病は気から一気は病から！

◆ 心と体は環境によって決まる

【コメント】

人間にとって、悩みや不安、怒り、悲しみ等の精神面のストレスは病気の原因になります。家庭問題や人間関係や人生、仕事等、その原因は沢山あります。また、こうしたことが要因となり諸々の事件も起こります。

では、どういう時にこうした感情やトラブルが起きるのでしょうか。

人は疲れている時やエネルギーが下がっている時は、心も疲れ、悲しみやマイナーな感情になります。

またイライラもしたり、怒りっぽくなったり、ケンカになったりします。

こうした時は、家庭内であっても、職場であっても、友人関係であっても、とかくうまく行かなかったりします。

一方、疲れも取れて身体が快調な時は、楽しくなり、家庭でも職場でも、人間関係もうまくいき、自信も湧いて来ます。

現代社会が病ばかりでなく社会問題や事件が増加の一途を辿っているのは、自然環境や生活環境の悪化と比例しています。

環境の改善と強化によって、肉体と同時に精神面も健全にすることが出来ます。

環境が豊かになれば生命力が向上し、生命力が向上すれば心も豊かになります。